



ぶらり らいぶらりい

～図書室にはこんな本があります～

No. 142

★ 利用者からの質問をもとに昭和館図書室の資料をご紹介します。
(書名の後の()の数字は請求記号です。)

問) 「ニイタカヤマノボレ1208」「トラトラトラ」の暗号の意味は？

答) 「ニイタカヤマノボレ」をキーワードに開架書架にある本を検索します。

図書の「ことばから調べる」を選択します。

下図のように入力画面で「ニイタカヤマノボレ」と入力します。



“閉架”にチェックが入っている
ので、これはずすと“開架”だ
けの資料が検索できます。

『語りつごうアジア太平洋戦争』(210.7/W23/4 開架書棚(児童書))が検索されます。

◆ 「ニイタカヤマノボレ 1208」

“12月8日に攻撃を開始せよ”という真珠湾攻撃を命令する暗号電文です。

◆ 「トラトラトラ」

“われ奇襲に成功せり”という真珠湾攻撃成功の暗号電文です。

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。
検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。
操作方法等、カウンター職員までお気軽にお問い合わせください。

焼け跡に流れた「尋ね人」



「前の住所が東京都台東区谷中初音町4丁目の木村とみさん、マレーにいられるお子さんのことに関し東京都新宿区下落合3の1741の栗原四十治さんから消息をお聞きください」

こんな放送がラジオから流れるようになったのは、1946年(昭和21年)7月1日からでした。新番組『尋ね人』のはじまりです。

満洲事変から太平洋戦争の終戦まで、長い戦争で大勢の犠牲者が出ました。戦局が悪化していくにつれ、前線の将兵の消息が内地の家族には伝わらなくなり、戦後の混乱の中では、その手がかりを見つけることは容易ではありませんでした。

ラジオではこの年の1月から『復員だより』がはじまり、復員や引き揚げに関する情報をまとめて放送していました。

7月に始まった『尋ね人』は、特定の個人についての消息を尋ねる番組で、聴取者からの手紙を読み上げて消息を知る人に情報の提供を呼びかけ、肉親や知人の消息を知りたい、留守家族に消息を伝えたいという切実な思いを込めた手紙が続々と寄せられました。

放送開始から49年(昭和24年)6月までの3年間に取上げた放送依頼は1万9515件。このうち、ほぼ3分の1に当たる6797件について消息が判明しました。

戦後の混乱が収まるにつれて、放送の申し込みは減っていきました。それでも『尋ね人』の放送は、62年(昭和37年)3月まで、15年9か月間続きました。

* 以下は『尋ね人』と世相断片(抜粋)NHK 脚本部『尋ね人』係から

「主人は生きていますか…ほんとに生きて…まあ、坊や、お父ちゃんはきっと帰って来るのよ！」

一目でそれとわかる生活苦の為のやつれた顔に、驚きと溢れるような喜びと、一瞬開かれた心の窓、希望に充ちた顔…そして、それ等の果てしない歓喜を、横に手を引く五、六歳の吾子に、激しく抱いて投げかけた時…。

ああ、何という感激、それは尋ね人の放送に携わる者のみが味い得る、意義深い仕事のよろこびである。

「いくつ寝たらお父様に会えるの、お母ちゃん！」そういった幼児の言葉にさえ、何時もの駄々とは違った熱いものが刻まれていた。

これはNHK 玄関の係を訪れた、遠きシベリアに夫の生存を知った妻のある日の姿であった。

(『放送文化』49年8月号から)

◎参考文献:「昭和第7巻 二万日の全記録 廃墟からの出発」(210.7/Ko19/7 開架書棚)

「20世紀放送史 上」(699/N71/1 開架書庫)

—図書室から—

* 1階資料公開コーナーのご案内

1階にて、3月4日(日)まで「婦人雑誌の附録—女性のたしなみと生活—」を開催しています。

(実物の雑誌は図書室カウンターにありますので、お手にとってご覧いただけます)

ぶらりらいぶらりい ~図書室にはこんな本があります~ NO. 142

2012年1月20日 発行/ 編集・発行 昭和館 図書室〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1